

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		仙台市立町たんぼぼホーム				公表日	令和7年3月13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・各クラス10人未満の子ども+保護者であり、保育室のスペースにもゆとりがあった・比較的余裕があり適切である		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・利用定員や子どもの状態に合わせて日々、職員の配置数を臨機応変に変更している・子どもの人数に対し職員数は適切かと思う・新入園児や単独を行う時に各クラスと園長、主任に協力をもらいながら行ってきた	・子どもの人数に対し職員数は適切かと思うが、もう1人各クラスに職員がいるとより細かな保育が提供できると思う・単独通園、施設内分離等、実施する際、状態像によっては増減の調整は必要と思われる	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・各クラスの子どもの状態に合わせ、また個別の状態に合わせた構造化を実施している・周囲の様子が機にならない(集中できる)様、パーテーションで区切ったり、イラスト、数字等でわかりやすく提示している・状態により構造化は変え、子に合わせた環境として整えるようにしている・クラスで子どもに合わせた環境や活動の流れを都度クラス職員に話したことや、保護者とも共有しながらすすめてきた		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・日々、清掃を行い清潔な環境を保つように整えている。又、玩具等、気にならない様、見えない様になっている・デイリープログラムはクラスや個人に合わせた環境として整えるようにしている・日々の清掃で利用者が気持ちよく過ごせるよう心がけている・昼食後は保育室内の床掃除、また保育後には施設内の掃除を毎日行っている。空気清浄機、加湿器、除湿器を使用したり、随時換気を行い清潔で心地良い環境作りに努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・構造上、難しい部分ではあるが、フロアをパーテーションで区切る等して工夫している・子どもの姿や様子に合わせて廊下のホールを使用したり、パーテーションなど使用しながら環境調整を行ってきた・和室や廊下にパーテーションで区切った場所を作り、使用できるようにしている・パーテーション等を使用し、必要時には子どもが個別で過ごしたり落ち着ける環境を整えている	・授乳や休息をとりたい保護者が重なった時などは子どもの個別な部屋は難しかった	
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・日々、反省や打ち合わせ等を行い、話し合いを行っている・支援の取り組み等あらゆる場面でPDCAの考えに基づいて実施しよう意識している・日々保育の振り返りや職員会議、クラス会議、支援会議等に全職員参加している。会議録も作成し、欠席した職員にも開示し周知を図っている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・アンケート結果を基に意見等を把握し業務改善に努めている・年度初めに意見等を把握する機会があり、共有してきた。・年度末に評価表を記入してもらい、保護者の意向等に対する職員間で意見交換、改善案を挙げ次の業務改善に繋げるよう努めている	・内容について振り返る機会を設けて次年度、保護者の説明に活かしていきたい	

業務改善	8	職員の見解等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	・日々の反省、打ち合わせ等で話し合い確認し、業務改善につなげている・話し合いの場を設け、一人ひとりが意見をもち、業務改善に向けて共通認識で行えるよう努力している・日々の中で話しやすい環境、面談等もあった・日々保育の振り返りや職員会議、クラス会議、支援会議等で職員間で意見交換、改善案を挙げ次の業務改善に繋げるよう努めている	・改善までは難しさもあったように感じる・引き続き職員より出た意見を法人に伝え情報を共有し、改善に向けて取り組んでいく必要があると感じる
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○	・監査、アンケート等で業務改善につなげている・第三者による外部評価（苦情解決）があった場合には、その評価結果に基づき業務改善に繋げていく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○	・定期的に研修に参加し、知識向上に努めている・幅広い分野における研修が実施されている・その年に合わせて必要な研修（園内研修等）を取り入れ学ぶ機会があった・年間で研修が予定されており、全職員が受講する機会を得ている	・受講希望状況に差があったため、決められた研修だけでなく、もう少し積極的に研修に参加できるように提示が必要と感じた
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	・話し合い、保護者、職員内で公表している・クラスの状態、個々の状態に合わせたプログラムを作成し実施している。保護者とも日々確認している・各クラスに合った活動プログラムを作成し各クラスだよりで公表している	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○	・支援計画作成前にアセスメント作成を行い、話し合い、保護者との話の中でニーズ等も確認し作成している・児童発達管理責任者（児発管）を交えた会議や日々の振り返りの中でも確認しながら、それを支援計画にも取り入れている・クラス内で話し合い、日々の活動の振り返りの際等共有し確認できるようにしてきた・常に保護者とのやりとりの中で保護者のニーズを確認し支援計画に反映できるようにしている・各子どものアセスメントを行い、保護者との面談の中でニーズや課題を聞き取り、支援会議で子どもに合った支援を職員間で客観的に分析し児童発達支援個別計画書を作成している	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	・児童発達管理責任者（児発管）を交えたクラス職員で会議、作成を行っている・共通理解の場として支援会議を実施、保護者や支援者ではなく、本人に重きを置いた内容を考えている・アセスメントはクラス職人が行い、それに基づいて児発管が作成している・クラス職員全員と児発管で支援会議を行い、子どもの最善の利益を考慮した児童発達支援計画書を作成している	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	・面談後、職員間で回覧し、個別活動等でも計画に沿った支援を行っている・回覧で共有したり、特に個別活動の中では計画に沿った活動を組み込む等、意識して行っている・面談当日の振り返り（特記事項のみ）や回覧で職員全員で共有し、日々の活動、個別活動でも反映されるようにしている・クラス内でも話し合い共有しクラス外であっても回覧などで共有することができた・児童発達支援計画書は、全職員に回覧し計画に沿った支援を行うよう努めている	

15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	・子どもの日々の行動等、状況がわかりやすいアセスメント用紙を使用している・アセスメントシートを用いたり、日々の行動観察においてアセスメントの視点で考えるようにしている・アセスメントシートの視点で日々確認し、子どもの状態把握に努めている・発達アセスメントシート、モニタリングシート等や職員間で日々の行動観察の振り返りを行い、子どもの適応行動の状況を把握している
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	・全ての項目において、ねらいと支援内容を設定している・全て網羅された項目に基づいて設定している・全て盛り込んでいる・児童発達支援計画書は、児童発達支援ガイドラインに沿って、ねらいや支援内容を項目ごとに分け、子どもの支援に必要な支援内容を作成している
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	・クラスで事前に話し合い、相談し決めている・月1のクラス会議、前日、当日の打ち合わせで確認している・クラスリーダーが年間、月、日ごとに活動プログラムを検討し、プログラムの細かい内容は全クラス職員で意見交換しながら立案を行っている
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・日々、活動を変え、様々な活動を取り入れ固定化しないようにしている・固定化する場合には子どもの発達特性を踏まえ、意図をもって、あえて固定することで子どもの取り組みを促している場合もある・一か月の間でまんべんなく活動を取り入れたり、同じ活動でも部分的に変化させる等、工夫している・子どもの様子や姿に合わせて、都度クラスで話し合い考えるようにしてきた・活動プログラムが固定しないように、前回の活動内容を踏まえた展開を行ったり、子どもの状態に合わせて提示の仕方を工夫するなど固定化しないように努めている
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	・職員間で話し合いを行い、個別活動、集団活動を組み合わせて実施している・年3回以上の個別活動の実施を目指して取り組んでいる・支援計画に基づいて個別活動、クラス活動等、合わせた活動を取り入れてきた・子どもの状況に応じ、個別活動と集団活動を組み合わせた児童発達支援計画を作成し、各子どもに合った必要な支援を行うよう努めている
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・前日及び当日に打ち合わせを行い連携して支援を行っている・日々の確認は怠らず、クラスや全体での確認を徹底している・前日もしくは当日に職員間で必ず打ち合わせを行い、支援の内容や役割分担、対応の仕方等について確認し、チームで連携して支援を行えるようにしている
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・支援終了後はクラス、全体で反省し振り返りを行い共有している・支援内容、対応について集団、個別のケースについても日々行っている・クラス内で共有することはできた。意識しながら行ってきた・子どもの姿、保護者との相談等も全員で共有するようになってきた・支援終了後には振り返りを行い、子どもや保護者の様子の確認や活動内容で気付いた、職員の対応、保護者とのやり取り等を共有している

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・支援終了後にクラス、全体、個人で記録を取り、支援の検証、改善につなげていく・記録漏れのないよう毎日行っているアセスメントの視点で記録するよう意識している・支援終了後の振り返りでクラス日誌を作成して日々の支援に関する記録を取り、随時閲覧できるように保管し、支援の検証・改善に繋げている	・要点をしぼって、支援計画作成時に利用できるわかりやすい記録に努めていきたい
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・支援計画作成前にモニタリングを行い、保護者の思い、判断や職員の見解を元に見直しを行っている・定期的にモニタリングを行い、子どもの状況の把握をし、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行うよう努めている	・達成時期が目途になっている為、それ以前であっても必要であれば見直す意識をもっていきたい
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・主任やクラスリーダー等、担当児を理解している職員が参加している・担任や児の状態等を把握できている者が出席するようにしている・クラス担任や主任等、子どもの状況を理解した者が必ず参加している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・アーチルや医療等、関係機関と連携して支援を行っている・必要時、連携して共通認識の元、支援を行う体制作りを行っている・児と関係のある所（他の事業所等）といつでも情報共有できるよう関係作りを大事にしている・必要に応じて関係機関と連携を行う体制を整えている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・次の進路に進む子ども、家庭に対し、移行に向けた書類を作成し、保護者の同意を得て移行支援を行っている・移行シートを保護者と一緒に作成し引継ぎを行っている・移行支援シートを作成し、保育・教育機関へ訪問を行い、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・該当者なし・現在就学時の移行のケースはないが、必要に応じて情報共有と相互理解を図っていく	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	○	・地域支援担当の職員が他センター等と連携を図り、地域の質向上の取組を行っている・センター間では連携し地域支援に取り組んでいる・地域相談員を中心に取り組んでいる・地域相談員を交えて情報共有、相互理解を図ってきた。・主に地域相談員が地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に取り組んでいる	・事業所との共同については今後、検討を要する・事業所との連携については今後の課題(どのように働きかけていくか等)
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○	・外部の専門家から定期的に助言を受けたり、外部の研修にも参加している・専門家や専門機関からの助言を受けたり、外部研修に参加するなどして職員の質や療育の向上を図っている	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○	・担当の職員が参加している・主に園長や地域相談員が協議会こども部会や地域の子ども子育て会議等へ参加している。会議内容の記録を全職員に回覧し、周知を図っている	
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	・買い物ごっこや人形劇、おたのしみ会など定期的に交流の場を設けてきた・近隣児童館、幼稚園との交流や、遠足の場所を児童館に設定するなどして機会を設けている・ホームの行事に地域のこども園や児童館を招待したり、こども園の行事に参加したり合同で行事を設定して交流する機会を作っている・行事等で地域の認定こども園や児童館のこどもとの交流活動を経験する機会を設けている	・行事での交流のみだったので、通常活動の中で園庭や児童館に遊びに行く機会を作れたらと思う
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・親子通園の強みとして、保護者との共通理解を意識して、話し合いを行っている・子どもの様子、状況を活動を通して保護者に話したり、連絡帳等を通して伝え、共通理解できる様、努めている・日々の療育の中で保護者と子どもの状況を伝え合い、子どもの発達の状況や課題についてできる限り共通理解を図ろうと試みている	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・園長、主任が主体となり、機会を設けている・ペアレントトレーニングの勉強会や父親勉強会等を実施し、研修の機会や情報提供・情報交換が行えるようにしている	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	・運営規程、利用者負担等については入園説明会時に説明したり、提示はしている・入園時に説明を行い、利用負担については毎月、書面で渡している・入園説明会にて園長から説明を行っている	・理解出来ない人もいますので、丁寧にわかりやすい説明の仕方を検討していきたい・説明の仕方には更なる工夫が必要と感じる
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	・モニタリングの際に実施している・面談等を行い、意向を確認する機会を設けている・保護者と子どもの意思の尊重、子どもの最善の利益の優先の観点から、初期面談にて児童発達支援計画における保護者と子どもの意向の聞き取りを行っている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	・面談で確認している・面談時、内容を丁寧に確認、説明を行い、保護者からの同意を得ている・児童発達支援計画を保護者に提示し、支援の内容を子どもの状況を踏まえながら説明し、保護者に同意を得ている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	・支援計画等の面談時以外にも、保護者からの相談があった際等、必要に応じて支援を行っている・定期的に家族からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、聞き取りや面談の時間を設け、助言と支援を行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	・グループワーク、日々のブレイクタイム、Hoっとキッズを実施・1日の活動の中で保護者だけで話をしたりする機会を設ける等、保護者同士の交流の機会を設けている。又、兄弟だけを呼んで楽しめる行事を設ける等の家族支援を行っている。たんぼぼ+で保護者の会を支援し、グループワークで保護者同士の交流の機会を設けている。またHoっとキッズでレクリエーション活動等を通して、きょうだい同士で交流する機会を年2回以上設けている	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	・支援計画の他に日々の活動時や、入園時等に、相談体制について保護者に伝え、相談があった際はできるだけ早く対応するよう心がけている・保護者の様子に目を配り、いつもと違う様子を感じた時は、こちらから声をかけて対応することもある・タイムリーに応じられるよう対応してきた・保護者から相談や申し入れがあった場合、迅速に対応の体制を整備し、適切に対応するように努めている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	・緊急時等の連絡体制については、入園時に保護者に伝えている・毎月たんぼぼだよりを発行し、活動の概要や行事予定等を保護者に発信している	・今は法人のHpで定期的の実施していない。今後、最新の情報を伝えられるように検討していきたい

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	・個人情報の書類等は鍵付きのロッカーに収納する等、取り扱いには気を付けている・名簿、ケース記録、USB等、施錠できるロッカーで管理している。また園長・主任のみ緊急名簿を管理している・職員は個人情報に関する書類等を外部に持ち出せないことになっている	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	・言葉だけではなく、必要に応じて写真や文章（文字）等で配慮を行っている・子どもや保護者それぞれに合わせた意思疎通や情報伝達手段を考えて行っている。込み入った話や相談等の場合は別室等を用意する配慮を行っている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	・地域に対して勉強会等を開催し、地域に開かれた施設になる様、努めている・地域の方にたんぼぼホームを知ってもらうために開かれた事業運営に努めている	・子ども園や児童館の子どもを対象には行っているが一般の人達には行っていないので、今後、あり方を考えていく必要があるのかもわからない
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	・年度初めに職員全員で確認し、毎月、園児、保護者と共に避難訓練を行っている・職員は各マニュアルを周知し、また研修や訓練を行い、発生時や非常時に迅速に対応できるようにしている。保護者にも防災講座の受講を促したり、月1回の避難訓練に参加してもらっている	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	・毎月の避難訓練の他に、救命救急講座も定期的に行い、参加している・BCPは作成している・地震や火災、ミサイル、不審者等非常災害を想定し、定期的（月1回）に避難訓練を実施している	・より良い研修や訓練の進め方を学んでいながら行っていきたい
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	・入園時、書類を保護者に記入してもらい、必要に応じて聞き取りを行っている・入園時や年度初めに既往歴や服薬、予防接種等を健康記録カードに記入してもらい事前に確認している	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・該当ケースなし・食物アレルギーの有無について入園前に保護者に確認しているが、医師の指示書は確認していないことが多い（対応等については保護者と口頭で確認している）・必要に応じて医師の指示書を提出してもらっている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	・避難訓練、救命救急講習に参加し、安全が保てる様、努めている・安全計画は作成している・安全管理に必要な研修や訓練等を行い、職員間で安全な保育設定がなされているか確認・改善しながら支援している	・より良い研修、訓練の進め方を学んでいながら行っていきたい
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	・日々、危険のない様に見守ると共に危険な事に対して保護者に伝え、安全確保に努めている・家庭訪問、防災講座等で、家庭での安全確認を行い、共有してきた・保護者に防災講座や避難訓練等に参加する機会を設け、子どもの安全に関して取り組みや内容を周知し、連携を図っている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・その都度、職員全体で共有すると共に、ヒヤリハットの用紙に記入し、再発防止に努めた・ヒヤリハットを書面で作成し事業所内で共有し、再発防止に向けた対応策等を検討している	

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	<p>・1年に1度、園内で研修を行い参加しているがその他に今年度はたんぼぼホーム合同で研修で学ぶ機会があった。月に1度、月末に会議を行い、虐待案件がなかったか職員間で確認し対応等も話し合っている。又、虐待につながりそうな対応には適切な対応を保護者に伝えている・年に2回たんぼぼホーム合同の虐待防止委員会を開催し全体でも共有してきた・虐待防止をするための職員の研修を行い、毎月虐待防止会議を行い適切な対応を検討する機会を設けている</p>	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	<p>・該当者なし・入園時に説明したり、やむを得ず身体拘束をする際には保護者にも説明している・保護者が一緒に登園しているため、対応については常に話し合っているが、身体拘束は行っていない・如何なる場合でも身体拘束は行わないと組織的に決定している。身体拘束の事例はないが、癇癇等の対応については保護者に事前に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載を行っている</p>	